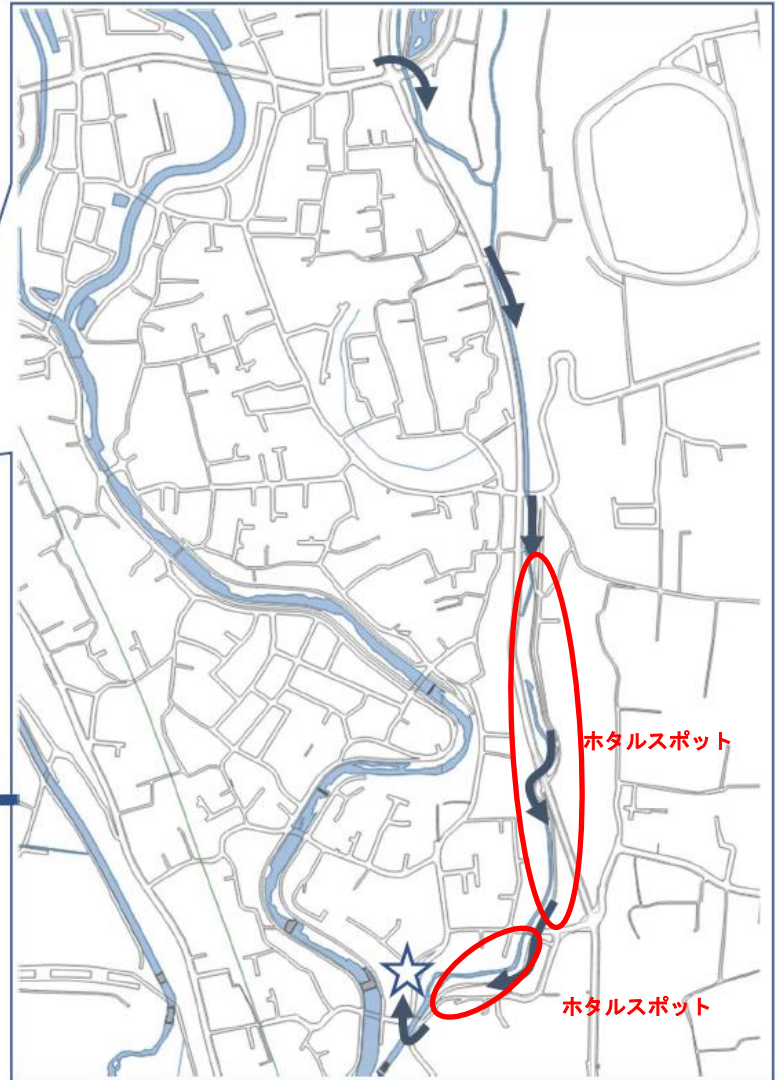


かんさつ ホタル観察



一ホタルについて一なぜ減ったのでしょうか

おもに熱帯から温帯の多雨地域に分布し、世界にはおよそ2000種生息しているといわれています。

日本にはゲンジボタルやヘイケボタルなど約50種がみられます。ホタルの多くは、幼虫の時陸上で過ごすけれど、ゲンジボタルやヘイケボタルやクメジマボタルなど一部のホタルは水中でくらしします。(世界で10種ぐらい、日本には3種) そのため、水のきれいな小川で水辺もホタルがくらしやすく手入れがされていないとすめません。ホタルが減ってきた原因は、川が汚れたり、川岸がコンクリートで固めたりしたためにすめる場所が減ってしまったのです。

近年では、全国各地でホタルを守る活動やホタルがくらせる環境を取り戻す活動が行われています。麻溝地区でもいち早くこの活動に取り組んでいる団体があります。「一道保川を愛する会— 未来につなごうきれいな川を」(大下地区と谷戸地区の地元有志)の団体です。今夜、ホタルの観察会をする場所です。

取り組みの紹介

一道保川を愛する会— 未来につなごうきれいな川を

道保川は、道保川公園や横山丘陵から湧水(湧水箇所は31箇所となっている)を集め、鳩川に合流し相模川に流れ込む延長3・7kmの河川です。

昔から大下地区の住民と深い関係がありました。いつもきれいで水量も変わらず地区住民の生活用水に利用され、水車で精米したり、蚕の糸を取ったり生活に密着していました。

昭和40年頃から、道保川周辺は残土が捨てられ、生活排水路も流れ込んで、川全体がドブ川化しさらに暗渠化され、どこに川が流れているか分からない状況だったそうです。

そんな中、従来のコンクリートで作った川の整備でなく自然を生かした多自然型川づくりの工事方法に住民も賛同し、道保川の流れの全貌が見える散策路もできて、昔の

せいらりゅう どうほがわ に ど せいらりゅう がわ
 清流の道保川がもどってきたそうです。二度とこの清流をドブ川にはしないと、
 しぜんかんきょう たいせつ まも いこ ぼ こども しそん あそ ぼ のこ
 自然環境を大切に守り、みんなの憩いの場として、子供や子孫の遊び場として残してい
 じもとゆうし どうほがわ あい かい ほっそく かつどうないよう
 こうと、地元有志による「道保川を愛する会」が発足したのだそうです。活動内容は
 つき かい せいそうび か かつどう ていれいか くさばな しょくさい がいらいしょくぶつ じょきよ がいらいせいぶつ
 ① 月2回、清掃美化活動を定例化して、草花の植栽や外来植物の除去、外来生物
 くじょ あ かんなど しゅうしゅう
 の駆除や空き缶等のごみの収集などを行っている。
 ちいき しょうがくせい そうごうがくしゅう きょうりよく かつどう つう かわべ
 ② また、地域の小学生と総合学習への協力をしている。この活動を通して川辺
 い もの こんちゅう しょくぶつ かんしん ふか かんきょうきょういく おも
 の生き物（昆虫や植物）への関心が深まり、環境教育へつながっていると思いまし
 た。
 ちいきじゅうみん こうりゅうかい ねん かい はる なつ あき こどもかい ろうじんかい こうりゅうかい
 ③ 地域住民との交流会 年3回（春、夏、秋）子供会、老人会との交流会をしてい
 る。

一道保川を愛する会の方々の願い

こんご どうほがわしゅうへん さとやま せいび わきみず つづ やま かわ しぜん
 「今後、道保川周辺の里山も整備して、きれいな湧水がいつまでも続き、山と川の自然
 かんきょう まも こども まご しぜんゆた ちいき のこ かんが
 環境を守りながら、子供や孫たちに自然豊かな地域として残してゆきたいと考えてい
 ます」
 かじつ だいひょう こやま あ うかが はなし しりょう
 過日、代表の小山さまとお会いして伺ったお話といただいた資料をもとにまとめさせ
 ていただきました。いつまでも、ホタル舞う清流を守ってください。

しぜんかんさつしどういん あさはら
 (2018.5自然観察指導員 浅原)